

公益財団法人慈愛会と垂水市の包括連携協定のもと、今村総合病院の医師の皆様にご協力いただき、市民の皆様の健康増進及び子育て支援啓発を目的に、4カ月に1回、皆様にお伝えしたい情報をコラム掲載いたします。

どのような症状の時に産婦人科を受診したらいいの？

垂水市の女性の方々は、産婦人科は市外で遠いため、妊娠出産以外で受診したことが無いという方も多いのではないのでしょうか。今回は、どのような症状がある時に早めに産婦人科を受診した方がいいのかについてお話しします。

①生理痛がひどい

生理痛の正しい対処方法は、生理中に腰やお腹を温めることと痛み止めを我慢せず早めに内服することです。1日3回痛み止めを飲んでも生理痛で学業や仕事に支障がある時は、子宮内膜症等の婦人病も疑われます。産婦人科ではホルモン剤等、将来の妊娠に影響せず生理痛に良く効く薬が処方出来ます。

②生理の出血量が多い

まず自分の生理の出血量が多いかのチェックをしましょう。

- ・ナプキンを1～2時間毎交換する
- ・昼でも夜用ナプキンを使用する
- ・ピンポン球以上の血塊がでる
- ・以前より生理の量が増えてきている
- ・採血で貧血と言われたことがある

これらの症状が1つでも当てはまる方は、子宮筋腫など子宮の病気の可能性があります。貧血で気分が悪くなって交通事故を起こしては大変です。

③いつもの生理とは違う出血がある

20歳以上の方は癌が隠れている恐れがありますので、少量でも不正出血がある時は早めに受診をしましょう。毎年子宮頸がん検診を受けている方も、40歳以上では子宮体がんの検査が必要です。



今村総合病院産婦人科専門医

貴島 佳子

「一人でも多くの鹿児島女性の幸せになって頂きたい」をモットーに、産科・婦人科疾患を中心に患者様に寄り添った診療を行っている優しい先生です。

④かゆみ・おりもの・陰部のできもの

デリケートゾーンの症状がある時は、検査や治療が必要なサインです。気になる症状がある時は何でも産婦人科医にご相談ください。

⑤更年期障害？心身の不調

更年期には様々な心身の不調が生じやすいですが、糖尿病等の病気も増えてくる年齢でもあります。長引く不調を感じたら、まずはかかりつけ医を受診し必要な検査を受けましょう。何も異常が見つからない時は、産婦人科でホルモン補充療法や漢方療法が受けられます。

⑥生理が3か月止まっている

42歳以下で3ヶ月以上生理が止まっている時は、検査治療が必要です。思春期のお子さんは生理が不順な事が良くありますが、3ヶ月以上生理が無いと、将来の骨粗しょう症のリスクが高まる可能性があります。いつ生理があったかをメモして、3ヶ月以上生理が無い時は早めに婦人科を受診しましょう。

⑦1年間妊娠しない

子作りを開始して1年妊娠しない時は、早めに不妊治療を行っている産婦人科を受診しましょう。妊娠率は37.5歳を過ぎると低下していきます。妊娠しやすい時期を逃さないように、早めの行動を心がけましょう。

⑧下腹部の痛み

内科外科で検査をしても異常が無い時は、子宮や卵巣の病気の可能性があります。クラミジア等を放置すると将来の不妊の原因になる病気もあります。

特に症状がない方は、垂水市の子宮頸がん検診を年1回受けましょう。がんは症状がない早期に発見治療することがとても大切です。20歳以上の方は、年1回の子宮頸がん検診を受けて下さい。

☎ 保健課健康増進・元気プロジェクト係 ☎ 内線 138